

特集にあたって

内山 真*

精神科疫学は、広く関心地域における心の健康に関する実態把握から、精神疾患の有病率、精神疾患や精神医学的問題の関連要因を明らかにする学問領域です。精神疾患や心の健康について、臨床に従事し、研究を実行し、医療政策を立案するのにきわめて重要な基盤的知識を与えてくれます。さらに、縦断的疫学研究では自然経過の中で精神疾患の発展や病因論的探索や検証が行われるようになってきました。

精神科疫学は20世紀初頭の記述疫学に始まりました。当初の研究のテーマは、関心国ないし地域に精神疾患や自殺など精神医学的な問題がどれほど存在するか、それらが地域的あるいは文化的属性によってどう異なるのかなどの記述疫学が中心でした。多くの国において記述的成果の比較が行われるようになった結果、精神疾患や精神医学的問題の同定に関する共通の診断基準や調査法の必要性が指摘されるようになりました。こうして、20世紀後半になって、精神疾患や関連問題を評価するための共通の診断基準や評価手技の開発が始まり、精神疾患の有病率を調べる動向が始まりました。

DSM-III以降、世界的に共通の診断基準を用いて比較検討が行われるようになりました。それまでは地域的要因あるいは文化的要因として漠然ととらえられてきた中から、社会において個人が曝露される多彩な要因が精神疾患の発症機序として意識されるようになりました。素因的要因の影響、各発達段階における環境やイベントへの曝露などの病因論的理解が得られるようになりました。縦断研究においては、自然経過の中で起こり得る、あるいは遭遇する要因について探索的な検討がなされ、疫学研究が病因論的仮説を検証する場としてとらえられるようになりました。

本特集では、精神科疫学、精神医療に関する疫学のトピックを取り上げました。わが国における大規模な疫学研究について展望、精神疾患の疫学研究を可能にした診断基準や疫学指標選択に関する論考、病因論や治療論にせまる介入的疫学研究に関する紹介など多彩です。さらに現在進行中のコホート研究についての報告では最新の結果や進捗状況についても触れられています。この分野のパイオニアの先生から現在プロジェクトをリードされている気鋭の先生まで、素晴らしい先生方に執筆いただけたことを感謝いたします。

* 東京足立病院/日本大学医学部精神医学系 (〒121-0064 東京都足立区保木間 5-23-20)